

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

カンキツにおけるミカンハダニ及びカイガラムシ類の発生状況  
(技術情報第17号) について (送付)

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。  
記

2月のミカンハダニ及びカイガラムシ類の発生量が平年に比べてやや多い状況です。本年は越冬量が多く、今後の気温上昇に伴い、多発生する恐れがありますので、発芽前の防除を徹底し、発生密度を抑制しましょう。

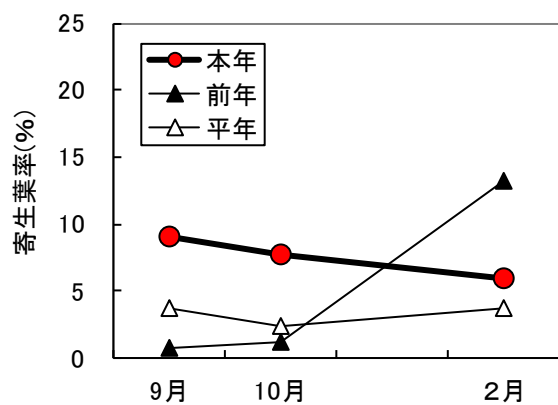
## 1 発生状況等

- (1) 県内各地のカンキツ園で2月上旬から中旬に実施した巡回調査において、ミカンハダニ雌成虫の寄生葉率は5.9%（平年3.7%）であり、平年比やや多の発生であった。
- (2) 防除員報告では、2月のカイガラムシ類の発生は6地域中3地域で平年比やや多の発生であった。

## 2 防除対策

ミカンハダニ及びカイガラムシ類の越冬期防除は非常に効果が高く、今後の発生量にも大きく影響する。本年は両種とも越冬量が多く、今後の気温上昇に伴い多発生することが懸念されるため、発芽前に以下の防除を行う。

- (1) マシン油乳剤（精製マシン油乳剤97%、使用濃度80倍）散布により越冬世代の発生密度を抑制する。ただし、樹勢の弱い樹への散布は落葉を助長する恐れがあるため、散布を控える。また、3月のマシン油乳剤散布は発芽前までに実施する。
- (2) 樹勢等を考慮し、マシン油乳剤の散布を控える場合は、アプロード剤（水和剤またはフロアブル）とアビオンEを用いて防除を実施する（[参照：農業の新しい技術 No.737（令和3年6月）ウンシュウミカンのナシマルカイガラムシはマシン油乳剤以外による越冬期防除が可能である](#)）。ただし、アプロード剤及びアビオンEを用いた防除はミカンハダニに効果が無いため、春期のミカンハダニの発生に注意する。
- (3) マシン油乳剤、アプロード剤及びアビオンEは浸透移行性が無いため、散布の際には樹全体にムラなくかかるように丁寧に散布する。
- (4) カイガラムシ類は樹幹、枝、葉に寄生しており、枝葉の混みあった所に多発するため、せん定、整枝を行い、薬剤をかかりやすくするとともに、通風・採光を改善する。また、集中的な寄生がみられた枝は除去する。
- (5) 農薬を使用する際はラベルをよく確認し、農薬登録内容を遵守して使用する。



ミカンハダニの寄生葉率の推移

熊本県病害虫防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 予察指導室)  
 担当：岡島、中村 TEL 096-248-6490